



埋文よこはま



やよい こふんじだい ぶき ぶぐ 弥生・古墳時代の武器と武具



都筑区大塚遺跡の環濠集落 空撮



朝光寺原1号墳出土三角板鋸留短甲と盾底付青
(横浜市歴史博物館所蔵・提供)



東京国立博物館所蔵 桂甲の武人埴輪
(TNM Image Archives 提供)



港北区新羽南古墳 全景

やよいじだい

いなさく

弥生時代中期後葉（約2200年前）に稲作が横浜市域に伝わりました。この頃から稲作に必要な土地や水を巡って争いごとがおきたりしたと考えられます。殺傷力のある鉄製武器が出現し、人々はムラを守るために「環濠」とよばれる集落を囲う溝を掘るようになりました。

古墳時代になると、畿内のヤマト王権が日本列島で大きな影響力をもつようになります。

埼玉県行田市稲荷山古墳から出土した鉄剣には「杖刀人首」（武官的役割の人）としてヲワケおみ 臣がワカタケル大王（=雄略天皇とする説が有力）に奉仕していることが記されています。

このように各地の地域首長がヤマト王権に奉仕していました。古墳から出土する豊富な刀などの鉄製武器や甲冑などの武具はそうした武人階級が中央政権から与えられたものです。

★今号のターゲット！

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安桃

土山

江戸

明治

現在

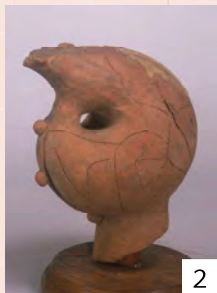
はにわ 埴輪にみられる武器・武具



1

大刀形埴輪

横浜市瀬戸ヶ谷古墳



2

鞍形埴輪

群馬県恵下古墳



3

鞍形埴輪

横浜市瀬戸ヶ谷古墳



4

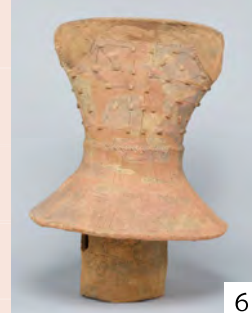
桂甲の武人埴輪

群馬県太田市出土



5

冑形埴輪 宮崎県西都原古墳群



6

短甲形埴輪 静岡県稲荷山古墳



7

盾持人埴輪

横浜市上矢部富士山古墳

1～6：TNM Image Archives 提供
7：横浜市歴史博物館提供

3世紀後半に古墳を飾る円筒埴輪が登場し、4世紀中頃に器材形埴輪（武器・武具など）が出現、5世紀前半に人物埴輪がつくられるようになります。このうち武器や武具の埴輪には、大刀・鞍（弓を使用する際に跳ね返った弦から腕を保護するため装着する）・鞞（矢を入れる道具）・冑・短甲などがあります。人物埴輪では盾に人物の頭部がついた盾持人埴輪や甲冑を身に着け弓や大刀を携えた武人埴輪がみられます。武人埴輪を観察することで、武器や武具の装着方法を知ることができます。

「みせる」武具から「つかう」武具へ



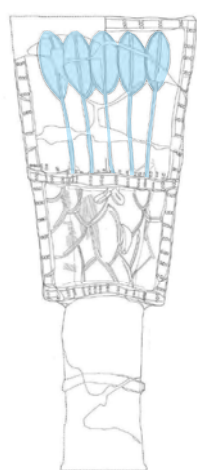
桂甲の武人埴輪（うしろ）

群馬県太田市出土（TNM Image Archives 提供）



胡篋埴輪

和歌山県大日山35号墳出土
(和歌山県立紀伊風土記の丘所蔵・提供)



矢の表現部分

胡篋埴輪実測図
(中原知之ほか2013年「大日山35号墳発掘調査報告書」)



埴輪表現にみる武人の装備

鞞も胡篋もどちらも矢を入れて持ち運ぶための道具です。大きな違いは矢をどちら向きで入れるのかという点です。鞞は矢じりを上向きで入れます。これでは矢を取り出す時に手をケガしてしまうと思いませんか？実は矢を入れたまま使用していたと考えられています。太陽光を反射するたくさんの矢じりをみせて、大量の武器があることを表すのが目的だったのかもしれませんが。一方胡篋はより実用的な道具です。矢じりを下向きに収納し、取り出しやすいようにしています。これは白村江の戦い（663年）でヤマト王権の百濟救援軍が唐・新羅連合の軍勢に大敗したことなどで武力強化の必要性に気づき、より実用的になったと考えられています。このころは戦力増強が急速に進められた時期でした。

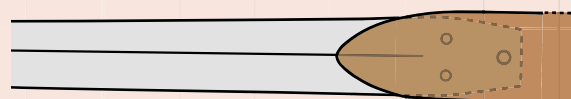
けんば てっけん てっそう 剣把・鉄剣（鉄槍）

さんとのだいいせき いーごいせき にっばみなみこふん
三殿台遺跡・E5遺跡・新羽南古墳

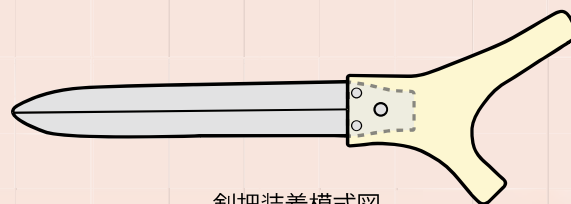
弥生時代前期後半頃～中期（約2400～2300年前）青銅製の武器が朝鮮半島から北部九州へ伝来し、その後鉄製品も日本列島へ入ってきました。関東地方に鉄製の武器や装身具が出現したのは後期前半（約2000年前）で、墳墓へ副葬されるようになります。鉄剣は弥生時代の関東では製作されておらず、西方からもたらされたと考えられています。

E5遺跡の鉄剣は「刃関双孔」と呼ばれる刃と茎の境目（関）に目釘孔を二つあける構造で、東日本ではこのような鉄剣には鹿角製の把をつけていました。三殿台遺跡ではその鹿角製の剣把がみつかっています。

鉄槍は長い木製の棒の先端につけて使用します。新羽南古墳から出土した資料は長さからみると鉄剣ですが、把が山形になって刃の根本を呑み込む「呑口式」となっていて、槍特有の拵えになっています。このため剣なのか槍なのか判断するのが難しいです。槍は刃関双孔を目釘孔として装具固定には使用せず、木製の把に隠れて外から確認できないことから剣であったものを槍に作り直したのかもしれない。



呑口式模式図



剣把装着模式図

かつちゆう 甲冑

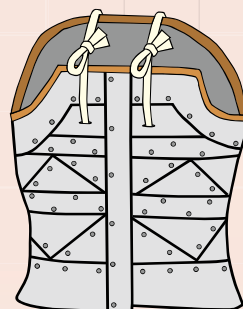
ちようこうじばらいちごうふん
朝光寺原1号墳

青葉区に所在する3基の円墳からなる朝光寺原古墳群のうち1号墳は直径37mを測り、墳頂部にある主体部（遺骸を安置する部分）からは割竹形木棺がみつかりました。副葬品は三角板鋳留短甲と眉庇付冑、鉄剣、鉄刀、鉄鉾、鉄鏃、玉類が出土しています。

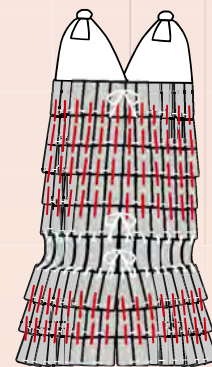
古墳時代の甲は大きく短甲と桂甲とに分けられます。短甲は細長い金属製の板または三角形の板を革や鋳で繋げたものです。桂甲は小札とよばれる小さな長方形の板を革で繋げてつくられます。桂甲の方が人の動きに合わせてより細かく動くといった特徴があり、古墳時代中期以降に日本列島に馬がはいってきたことで乗馬に向いているため広まりました。



三角板鋳留短甲と眉庇付冑
（横浜市歴史博物館所蔵・提供）



三角板鋳留短甲



冑丸式桂甲



本号で取り上げた遺跡の位置図

てつぞく 鉄鏃

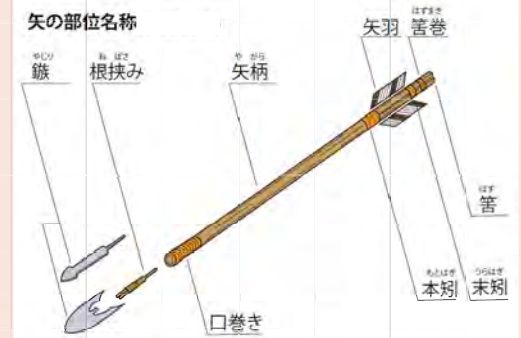
あかだいちごうぶん
赤田1号墳

赤田古墳群は青葉区に所在する4基の古墳と42基の横穴墓群からなる古墳群です。このうち1号墳は7世紀初頭の直径20mを測る円墳で、泥岩切石の横穴式石室を備えています。石室内からは、耳環・丸玉・小玉などの装飾品、大刀や多量の鉄鏃などの武器と刀装具、刀子、銅鏡、須恵器の提瓶などが見つかりました。

鉄鏃は鉄製の矢じりのことです。形状などの特徴から細かく分類がされています。東日本では6世紀後半に種類と副葬数が最も増加しますが、7世紀前半から中葉にかけてで新形式の出現が落ち着き、既存型式の一部が消滅します。赤田1号墳が造営された7世紀初頭はちょうどこの過渡期と言えます。



赤田1号墳出土 鉄鏃



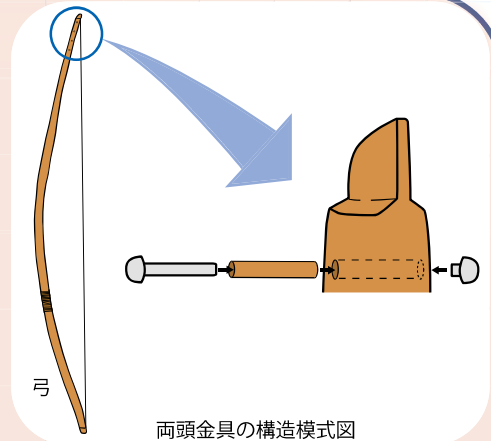
川畑純 2015年『武具が語る古代史』より引用

りょうとうかなぐ 両頭金具

みほすぎさわこぶん
三保杉沢古墳

緑区に所在する全長28mの前方後円墳です。泥岩切石の横穴式石室からは大刀・鏢・鉄鏃・両頭金具などが出土しました。墳丘からは土師器の坏や須恵器の甃・甕などの土器、埴輪が発見されています。石室の構造や遺物から6世紀後半に築造されたと考えられます。

両頭金具とは、弓の両端の弓弭につけられる留具のことです。弓は木製品のため、日本では本体が残っている事例が少ないです。しかし、この両頭金具は金属製のため、現在まで残りやすく古墳に弓が副葬されていたことを示してくれる貴重な遺物です。



両頭金具の構造模式図



上の資料は長さ約3cm
三保杉沢古墳出土の両頭金具

いしんざい ぶき ぶぐ 威信財としての武器・武具

威信財とは外部から入手された財で首長の威信を高めるモノのことで、首長とともに古墳に納められました。古墳時代前期では鏡や碧玉製腕飾類（南方の貝製腕飾を碧玉で模倣した車輪石や鍬形石などの祭具）を中心とした祭祀儀礼に用いる道具が多く副葬されます。中期になると武器・武具・馬具など武装傾向が強くなり、後期では実用ではない装飾大刀など武器や武具の装飾性が高くなります。このような威信財は中国大陸や朝鮮半島から入手したり国内で生産されたものをヤマト王権を介して各地に分配していたと考えられています。武器や武具は実用的な面以外にも首長のネットワークや権威、権力を示すものでした。

埋文センターイベント情報

開催中

企画展「君も今日から考古学者!—横浜発掘物語 2026—」

申込受付中

考古学講座「古代人の鉄づくり」

期間：4月18日(土)～6月21日(日)
9時～17時(チケット販売は16時30分まで)

場所：横浜市歴史博物館 企画展示室
横浜市都筑区中川中央1-18-1
横浜市営地下鉄「センター北」駅徒歩5分

観覧料：	一般	高校・大学生	小・中学生 横浜市内在住65歳以上
	企画展観覧料	500円	200円
常設展共通	800円	300円	150円

考古学と横浜の遺跡について楽しく学ぶことができる、体験型の展覧会です。会場内のコーナー「Ⅲ 古代人の鉄づくり」では、県内唯一の製鉄遺跡「上郷深田遺跡」の紹介も行っています。秋に開催の「栄区の古代」展示でも紹介を行います。プレ展示としてぜひご覧ください。



↑詳細はこちら

日時：6月21日(日)13時30分～16時
場所：横浜市歴史博物館 講堂
参加費：1,000円 定員：150名
申込：先着順 Web 申込(締切は6月17日(水))
講師：佐藤 信(横浜市歴史博物館館長)
古屋 紀之(横浜市歴史博物館副館長、(公財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター所長)
横浜市栄区の上郷深田遺跡の調査成果を中心とした、古代製鉄についての講座です。

講座申込はこちら→



予告

令和8年度「横浜の遺跡展」予告

※詳細は決まり次第埋蔵文化財センター HP 等でお知らせします。



↑埋蔵文化財センター HP

〔展示〕
(仮)「栄区の古代～上郷深田遺跡ほか～」
期間：10月7日(水)～18日(日)
場所：横浜市栄区民文化センター「リリース」ギャラリー
主催：横浜市栄区役所・(公財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
横浜市栄区内の遺跡紹介のほか、昭和61・62年に行われた上郷深田古代製鉄遺跡の発掘成果について、報告書の内容に拠りながら、解説パネル・写真パネルでわかりやすく展示を行います。

〔講座〕
(仮)「栄区上郷深田遺跡をめぐって」
日時：10月11日(日)
場所：あーすプラザ プラザホール
主催：(公財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
講師：古屋紀之((公財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター所長、横浜市歴史博物館副館長)ほか
上郷深田古代製鉄遺跡の内容と歴史的意義について、報告書考察を執筆した専門家が、多角的かつわかりやすく内容を伝えます。

編集後記

今号は武器と武具をとりあげました。横浜市内には埋文よこはまの6ページだけではとりあげられないほどの武器・武具があります。(今回とりあげた遺物一つ一つで1号分書けるくらいです…)気になる方はぜひ横浜市歴史博物館の過去図録などを読んでいただければと思います。来年度のイベントもたくさん予定しています。ぜひ会場へお越しください！ Y.N

横浜の埋蔵文化財について発信しています。ぜひ登録をよろしくお願いいたします！

X (旧 Twitter)

Youtube



《埋蔵文化財センターのご案内》

JR根岸線「港南台」駅
2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行きまたは港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分
京浜急行「金沢八景」駅
3番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

・見学等の施設利用は、平日の9～17時までとなっています。
・団体の施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。



埋蔵文化財センター HP

埋文よこはま 51

発行日 2026年3月31日
編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター
〒247-0024
横浜市栄区野七里 2-3-1
TEL. 045-890-1155
FAX. 045-891-1551